

駅前街路の歩行者空間創出に向けた 通行者の意識に関する研究

Research on passersby's attitudes toward the creation of
pedestrian space in the streets in front of the station



イラスト出典：朝霞エリアデザイン会議，朝霞駅周辺
エリア官民連携街中推進事業 エリアビジョン

2022年度受託研究「朝霞駅南口道路のウォーカブル化に関する研究」成果報告資料

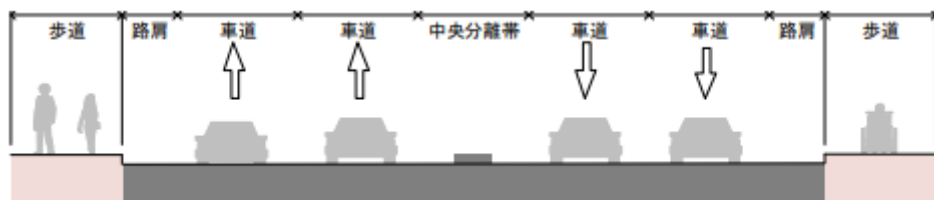
埼玉大学 工学部環境社会デザイン学科 交通・計画グループ

2023年3月

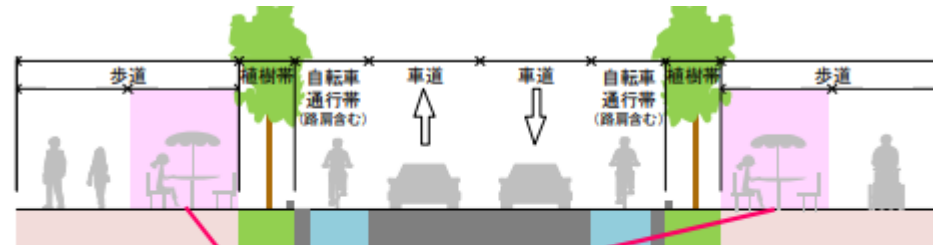
研究背景

道路の役割の多様化

道路空間の再配分



自動車優先



歩行者の利便増進を図る空間

自動車交通の処理
人々の交流によるにぎわい創出の場
歩行者優先

対象地区

朝霞駅南口駅前通り



車道幅員： 5.0m
路側帯：各0.75m
中央線のない双方向道路

対象地区



大型車も行き交う
他の交通を常に注意しながらの通行

埼玉県朝霞市

朝霞駅南口駅前通り：駅と市役所とをつなぐ商店街

- ・歩道がない
 - ・道路拡張ができない
- } **歩行者・自転車危険**

2015年 交通社会実験実施

→住民の合意形成が得られず、交通施策導入見送り



長年まちづくりの取り組みの中で歩行者優先化が必要であり
現在一方通行化整備に向けて進められている

研究目的

朝霞駅南口駅前通りの交通安全対策やにぎわい創出に向けた道路空間の検討

将来的な自動車一方通行化、歩道拡幅の再整備

通行者の現在の意識や再整備が行われた際の意識を調査分析し整備の推進に活かしていく

研究概要

アンケートの実施

イベント開催時にアンケート調査実施

アンケート、動画分析

- ・ アンケートを単純集計、個人属性ごとに集計
- ・ 通りに設置された監視カメラから
普段の交通の様子を観察

まとめ

今後の課題、展望

調査方法

- ・ 調査日時
アサカストリートテラス開催時
2022年11月6日(日)
10:00～17:00

- ・ 調査対象
朝霞駅南口駅前通りの通行者



アサカストリートテラス



朝霞駅南口～市役所前～シンボルロード
コンセプト
「あさかのまちなかテラスを歩こう」

歩行者天国化により
歩きやすい街並み、一方通行化後のイメージ

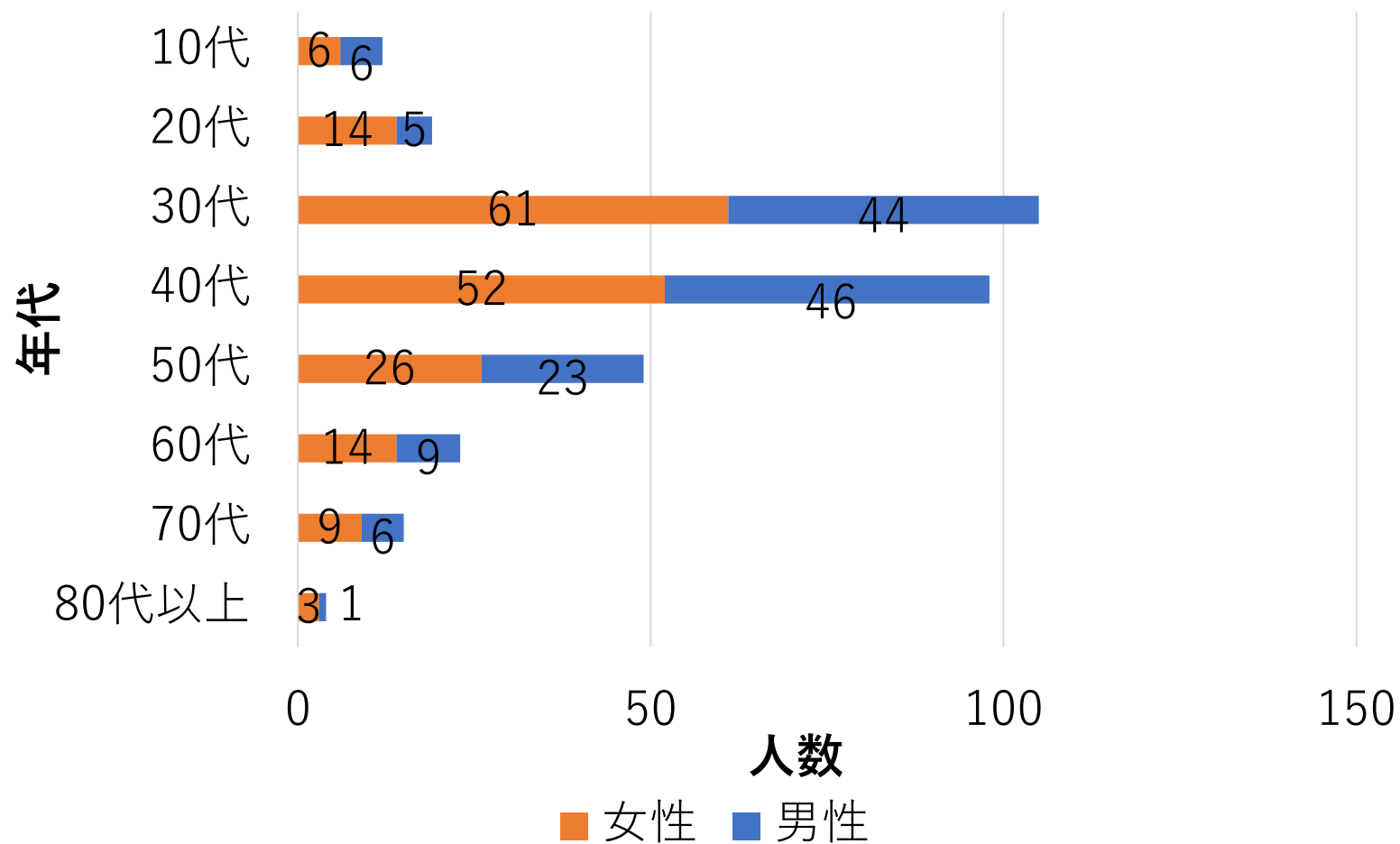
歩行者数(10:00~17:00合計)

2021年	
アサカストリートテラス 開催時	19,986人
普段の平日平均	2,173人
普段の休日平均	2,521人

2022年	
アサカストリートテラス 開催時	21,304人
普段の平日平均	2,268人
普段の休日平均	2,115人

年代

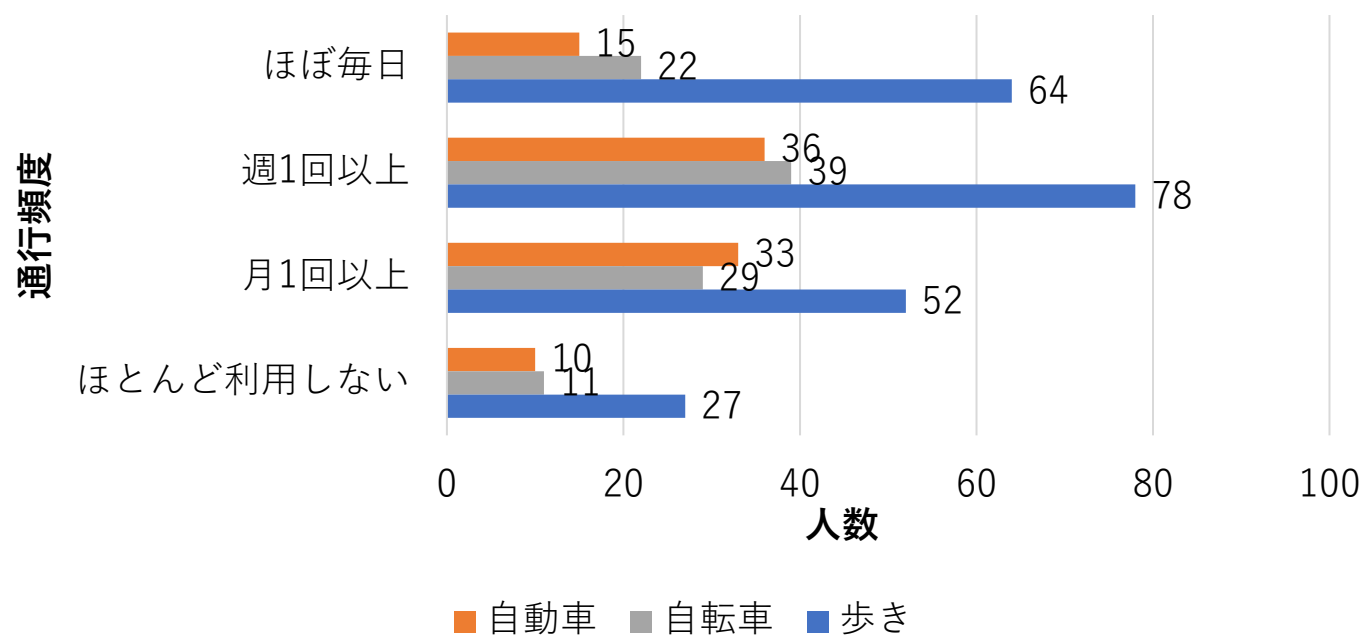
年代別、男女別集計



30代～40代の回答が多く
得られた
年代問わず女性の方が多く
回答いただけた

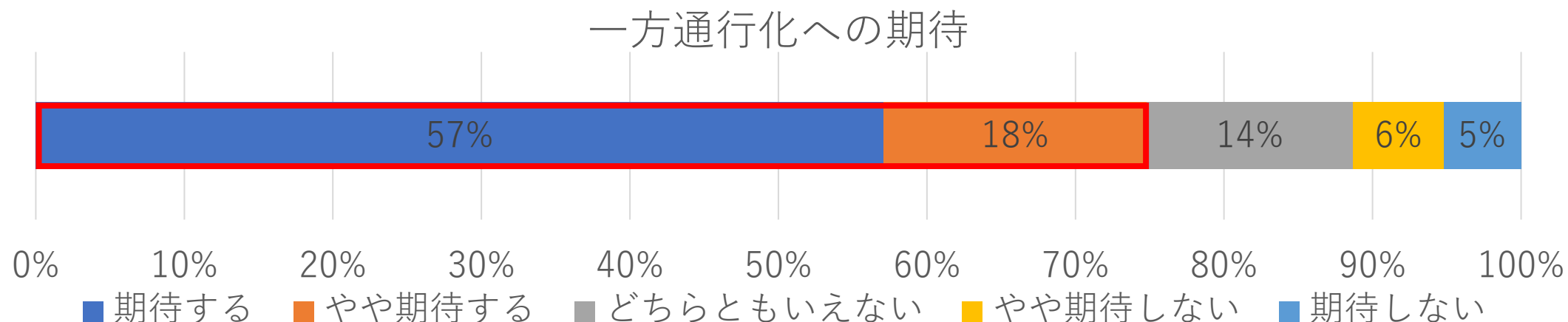
通行頻度、手段

通行頻度ごとの利用することのある通行手段



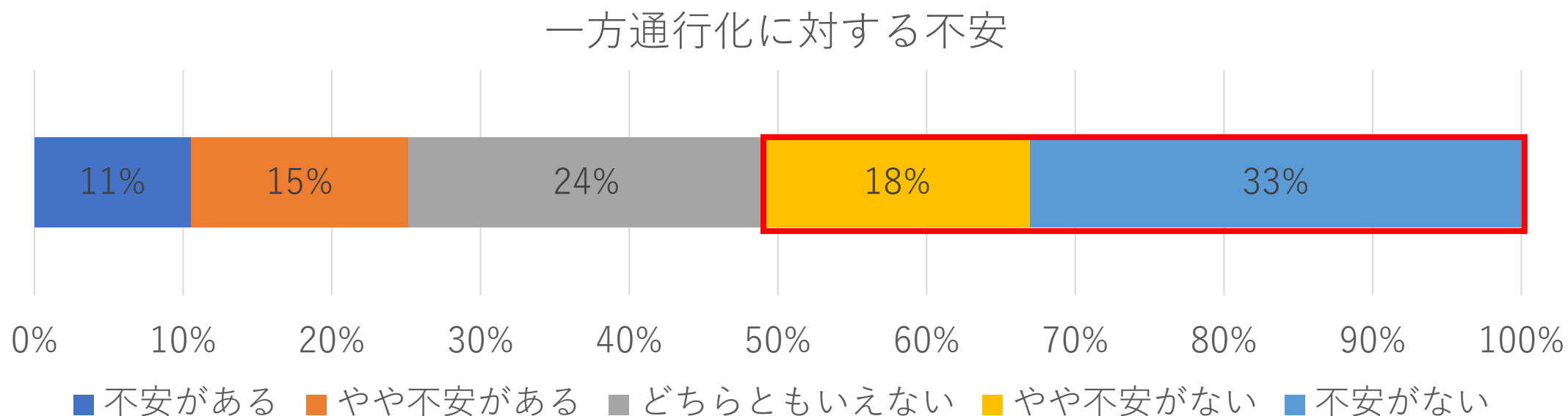
歩行で通行する人の意見を多く収集することができた
回答者の多くが定期的にこの通りを利用することがある

一方通行化への期待・不安



一方通行化に期待する・やや期待する：75%

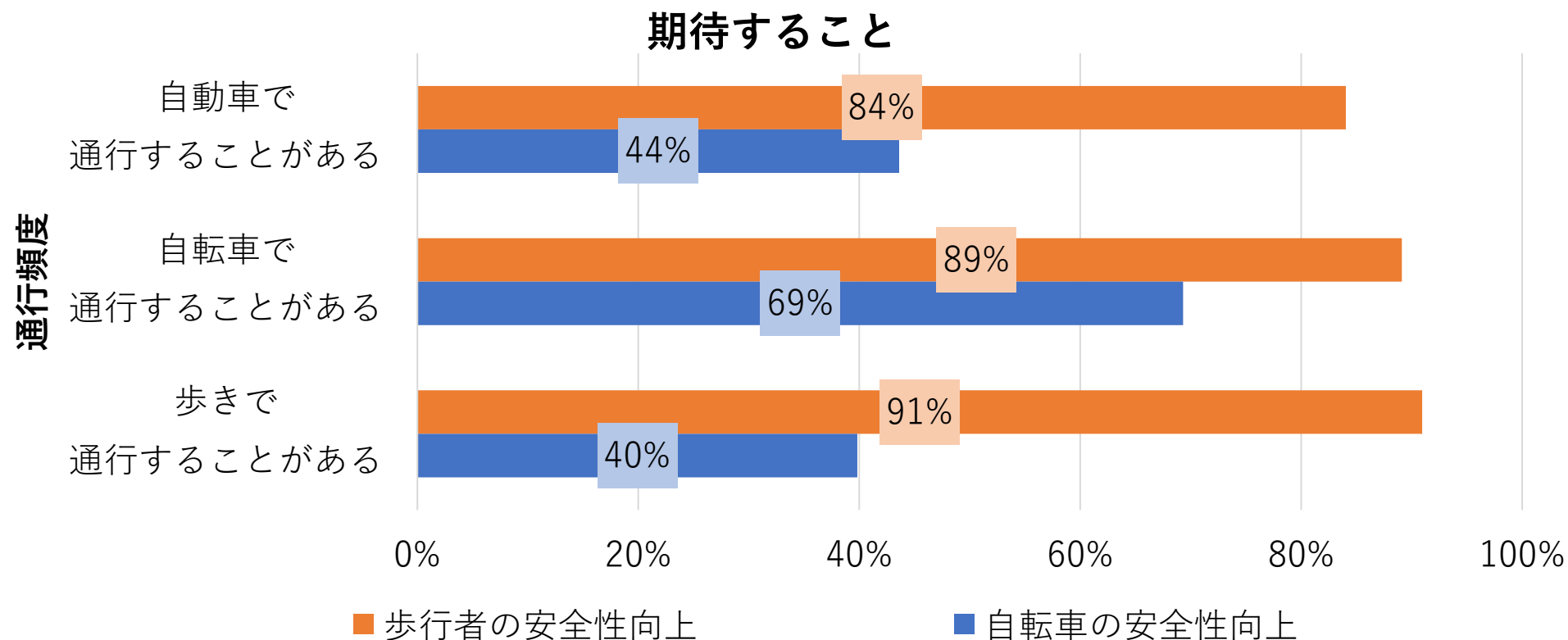
一方通行化への期待・不安



一方通行化に不安がない・やや不安がない：51%

現状の
朝霞駅南口駅前通りに
不満を抱いている

歩行者・自転車の安全性向上への期待



歩行者の安全性：交通手段間に有意な差は見られず

自転車の安全性：自転車利用者とほかの交通手段利用者とで有意な差が見られた

歩行者の安全性向上：通行手段を問わず期待が高い
自転車者の安全性向上：自転車以外の手段を利用する通行者からは
肯定的な意見が少ない



自転車が一方通行化されることにより
周囲の交通への心配が減り、高速で走行するようになり
他者に迷惑をかけるようになるのではないかと
懸念されている可能性

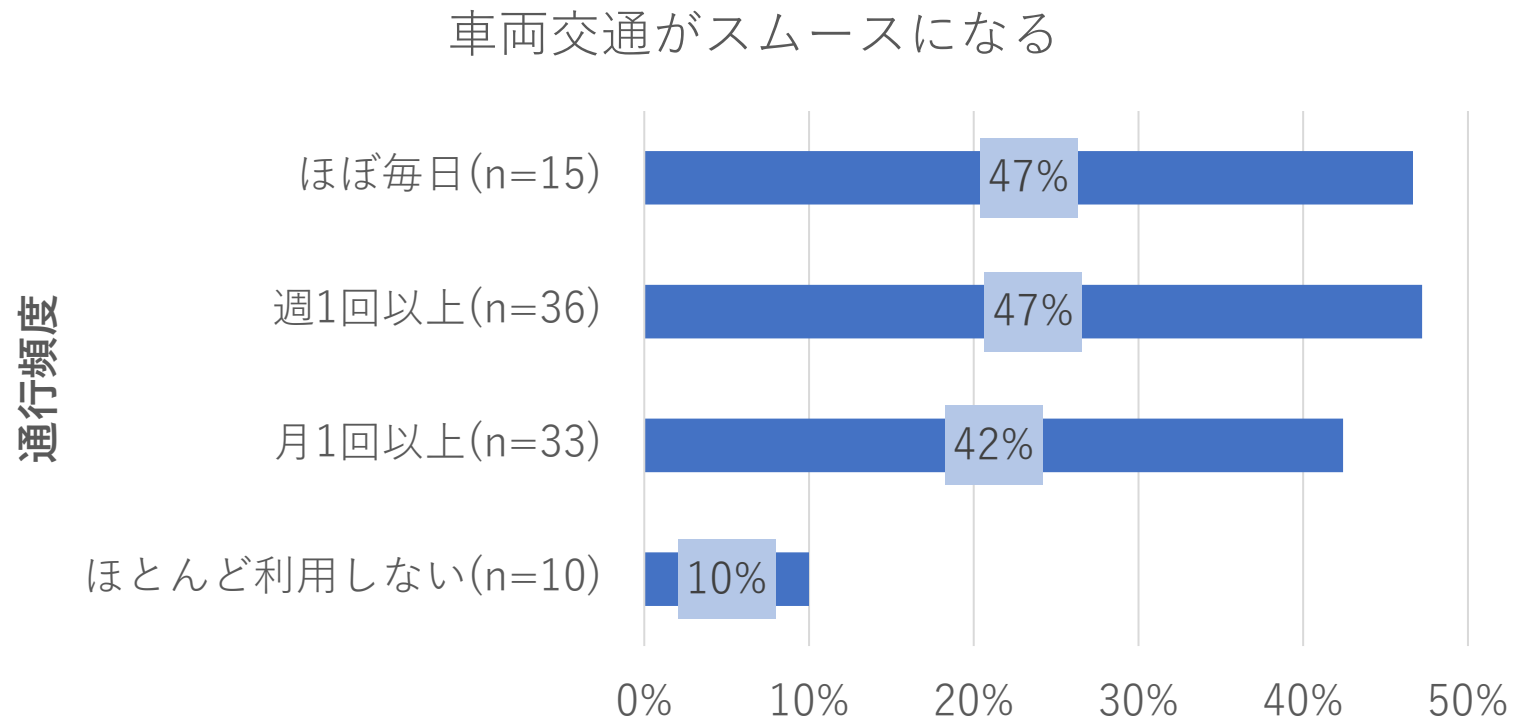


現在も後方確認を怠り、
歩行者を追い越すために路側帯から
車道へと飛び出すケースも

平日16:00～17:00において
左図の範囲において
歩行者の追い越し、すれ違いで自転車が
車道側に出て走行するケース下表の通り発生

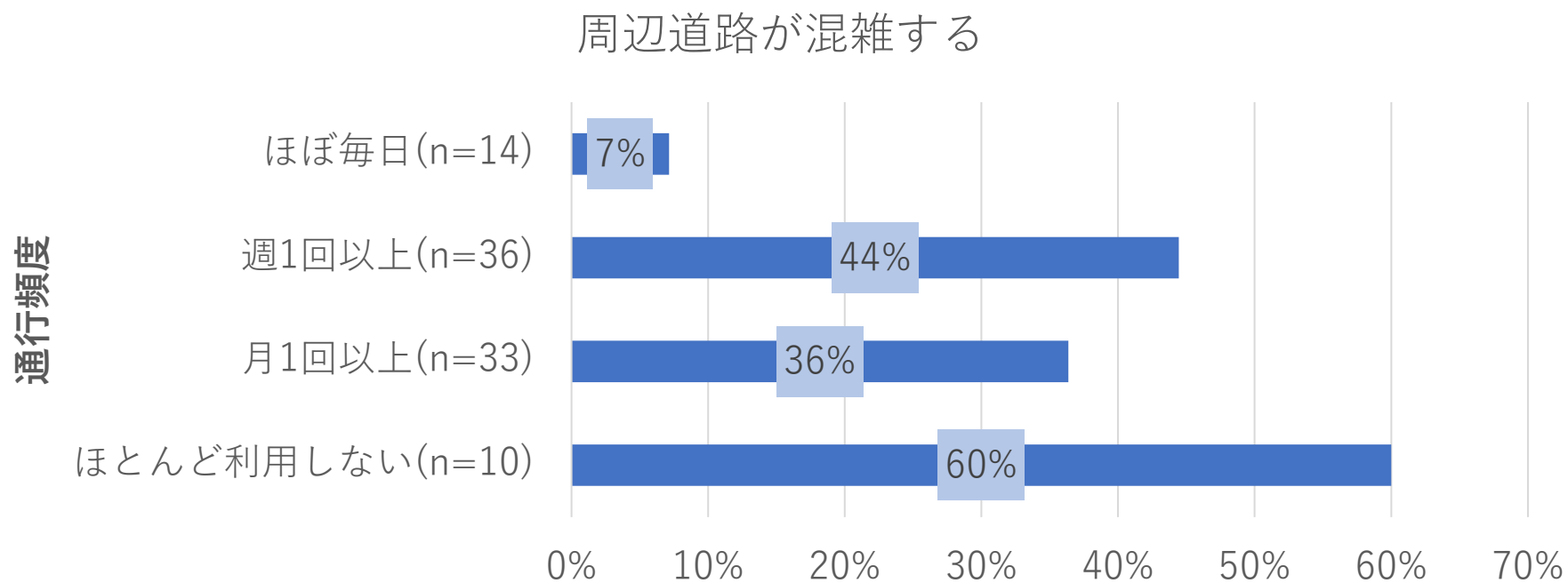
11月7日(月)	26件
11月8日(火)	24件
11月9日(水)	27件
11月10日(木)	32件
11月11日(金)	34件

自動車で通行することがある人の 車両交通がスムーズになることへの期待



自動車で定期的に通行する人は
車両交通がスムーズになることに対しある程度期待している

自動車で通行することがある人の 周辺道路が混雑することへの不安



自動車で通行することがある人ではよく通行する人は
周辺道路の混雑についてほとんど不安に感じていない

自動車で定期的に通行する人：車両交通がスムーズになることへの期待

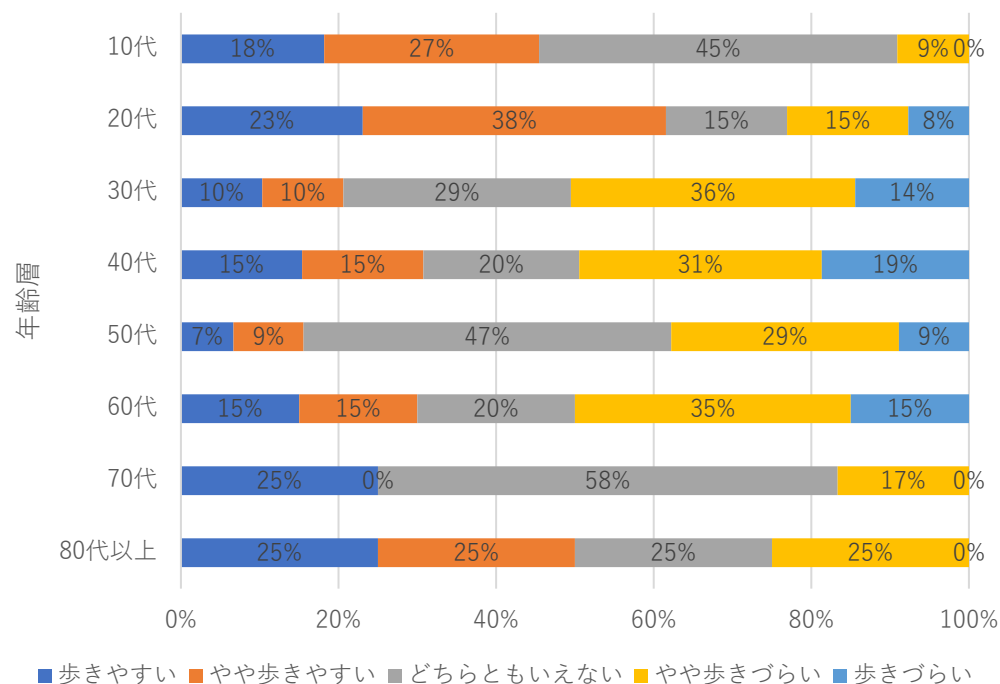
自動車で頻繁に通行する人：周辺道路の混雑への不安小



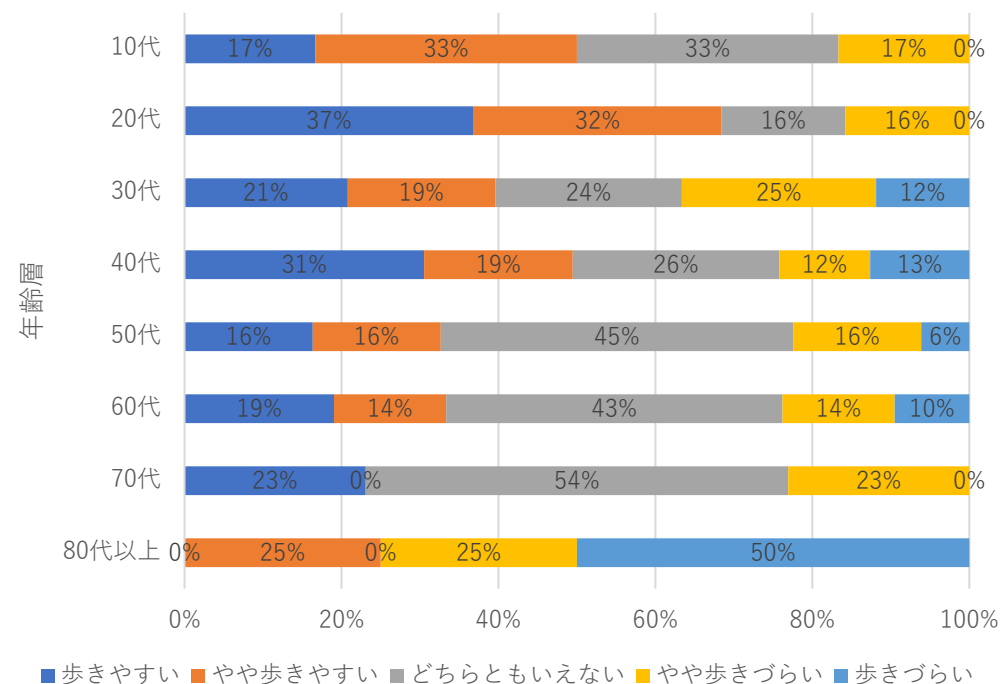
多少の不便よりも現在の通りの通行への不満

歩きやすさ

年代別普段の歩きやすさ



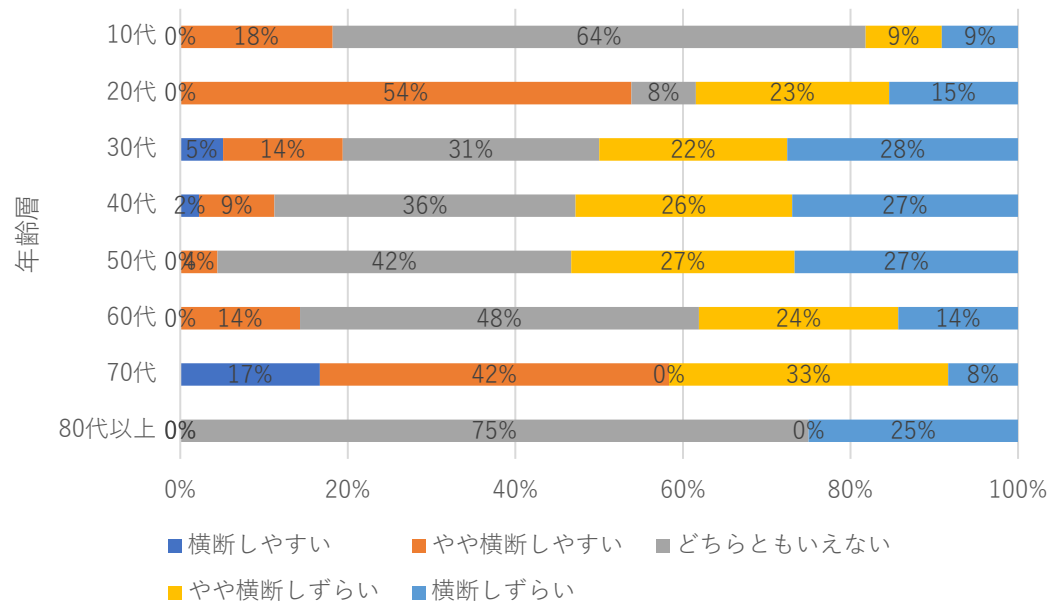
年代別AST時の歩きやすさ



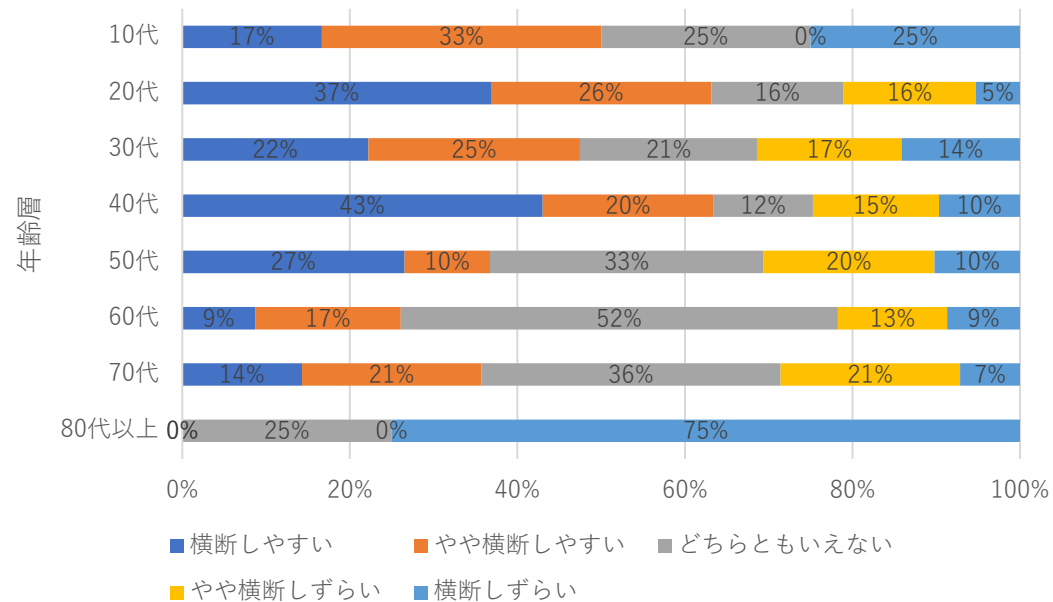
若い世代：歩きやすさ向上
高齢世代：歩きやすさ低下

通りの横断しやすさ

普段の横断しやすさ



AST時の横断しやすさ

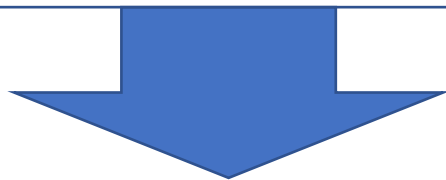


若い世代：横断しやすさ向上
高齢世代：横断しやすさ低下

歩きやすさ、横断しやすさ

高齢者

歩きやすさ低下
横断しやすさ低下



自動車がいないことよりも
人混みが高齢者には負担になっている

まとめ

- 現状、後方に自動車が接近しているにもかかわらず後方確認を怠り、歩行者を追い越すために路側帯から車道へと飛び出すケースが散見される。一方通行化により自動車のスペースを狭めた結果、歩行者用の空間を自転車が配慮なく通行するような状況にならないよう、整備を推進するにあたって留意が必要である。
- この通りを頻繁に使う人ほど車両どうしのすれ違いや歩行者や自転車の動きなど周囲の交通に注意を払いながら通行しなければならないこの通りの現状を考えると多少の不便は受け入れられるという表れと考えられる。そのため、安全な道路空間の整備の推進は急がれる。
- 属性によっては否定的な意見の増加も見られた。このような点のイベント時と歩道拡幅時の違いを説明し一方通行化の推進につなげていく必要がある。